



Highland Elementary


Haruka Fujiwara, Nana Matsukado, Liz Sampson, Kevin Goodrich

Midtermまでにやったこと

言語に重きを置いた授業展開

- カタカナ(名前カード・自己紹介)
- ひらがな(教室内のものの名前)
- 漢字(曜日:月、火、水、木、金)






サイトでの活動 (Group)

日付	目的	内容
10月29日 Liz	節分のこと教える。	節分について(鬼のお面作り、豆まき、鬼ごっこ)
11月5日	日本のものを紹介した。日本のものだけでなく好きなものを紹介する。	日本の昔のものを紹介(侍、着物、桜、忍者) 「私は、～～が好きです」と紹介
11月26日	日本の代表的な食と食事の時の文化について知ってもらう。 お箸を使えるようになる。	日本の食文化の紹介(寿司、ラーメン、餅など) いただきます、ごちそうさまでしたの練習 お箸の使い方



サイトでの活動

日付	目的	内容
12/3 Kevin	0から10までの数を教えて、運がいいと運が悪いの数の種類も教える。	数のことを紹介してて0-10を覚えるためのカードゲームをする。そして文化的に運のこともあるを説明して、自分の文化と比べる。
12/10 Liz	習ってきたひらがな、カタカナを作って家族に年賀状を書く。	年賀状について話せるようになるため。いつ・なぜ年賀状を送るのか。




SLから学んだこと (Individual)

Nana:

- 言語と文化の両方を組み合わせ、かつ子どもたちの興味を引き出す授業を作る難しさ
- コミュニケーションの重要性
- 子どもたちの日本語に対する意欲と関心の高さ
- 日本とアメリカの教育環境の違い
- グループとしてまとまることの大切さ

Kevin:

- 子供達は簡単に僕たちをロールモデルの風に見られると分かってきたから、それを忘れないほうがいい。
- 子供はとても虚心(きょしん)という者だけど、新しことを教える時、子供のちゅうもくが簡単に逸れるから、わかりやすい方法で行かなきゃいけない。
- 先生の仕事はエネルギーに必要すごくあるということ



SLから学んだこと

Liz

- 必要な教材について
- 子供達に良い印象を与えること
- 嫌いなことを好きになること

Haruka:

- ・教育の難しさ(準備、構成)
- ・コミュニティの概念、コミュニティに関わるとはどういうことなのか
- ・子供達の成長の速さ、柔軟さ
- ・自分にできること

SLO1: Self and Social Awareness

サービスラーニングの活動は、与える側・受け取る側の双方に良い影響を与える

- アイデンティティ形成、自己の再認識の促進

例： 実際にアメリカの小学校を訪れたことにより、日本とアメリカの教育環境や生徒たちの姿勢の違いを理解。

授業内での問いかけとデモンストレーション。

「アメリカでは挨拶する時はどのように立ち振る舞うか、日本ではどうか。」など

- 社会に対して関心を高める

例： 漢字を教える。

→中国だけで使われていると思っている子がいて、授業を通してその誤認を解くととも

に、日本では3つの文字が使われているということを教え、新しい知識を提供し、子どもたちの

視野を広げる。

「いただきます・ごちそうさまでした」の紹介

→ 生徒のほとんどがこれらの言葉を知らなかった。



SLO2: Service and Social Responsibility

- ・外国語学習を通じて広い視野を持つ
 - 一外国語、違う文化を学ぶことで、違いを発見することができるようになる。さらには、違うバックグラウンドの人とも関われるようになるための準備
- ・共通点、違う点を発見する能力、適応する能力
 - 一外国語学習を通じて、アイデンティティの確立とともに他の人への尊敬の姿勢を学ぶ。自分と違うからという理由で排除せず、受け入れ協調しようとする姿勢を学ぶ
- ・3つのレベルに繋げるために
 - 一SLで日本語を学ぶことにより、個人同士の受け渡しだけでなく、個人から家族やコミュニティ、さらには世界へ広がるような姿勢を受けわたす手助け



SLO3: Community and Social Justice

僕たちのサービスサイトを通じて、対象(たいしょう)となる生徒がどのようなコミュニティで生活しているかを学ぶことができると同時に自分の文化やコミュニティについても考えることができる。また生徒たちも日本語や日本の文化を学ぶことで自分のコミュニティに目を向けることができる。異文化の中で生きている人への尊敬(そんけい)の姿勢(しせい)を学ぶことで、コミュニティの中にいる人も尊敬する姿勢を受け入れて身につく。そういう姿勢の中で自分と違う人と交流(こうりゅう)することによってより、広い見方を持つことができ、コミュニティや社会で起こっている問題にも気づける人が育てる。



SLO4: Multicultural Community Building/Civic Engagement

人によって考え方が違う。サービスラーニングにおいて多文化的な考え方を紹介することができた。私たちは自分の背景や経験でステレオタイプについて意識を変え、コミュニケーションスキルを生徒達とスタッフにもらった。

子供達の場合、平等な教育を与えるということ一番大切なこと。今、異文化の生活に適応するのが一般に難しいが、成長する間に子供達に多文化を教えたら将来の社会人は世界や異文化について良いイメージを持って適応することが簡単になる。

ご清聴ありがとうございました！

